



【1】一種研開催報告

2026年3月の一種研を3月18日(水)～19日(木)の2日間にわたって松本商工会議所で開催しました(写真1)。今回は、一般講演11件、AP研フレッシュドクターセッション1件、AP研チュートリアル講演1件、IEEE AP-S Tokyo Chapter特別講演1件で、合計14件の講演がありました。

フレッシュドクターセッションは、最近、博士の学位を取得された若手研究者を招待して講演いただくものです。今回は、広島市大の立石李希人様に博士論文の内容である「韓国から日本へ到来するV-Low帯ダクト伝搬と日本の高層気象との相関評価」について講演いただきました(写真2)。講演の後、今井委員長より記念品が送られました。今後のご活躍を期待いたします。

AP研チュートリアル講演では、岩手大学の村田健太郎先生に「生体模倣インテリジェント電磁ファントムの研究開発～ヒトセンシングレーダの新たな標準化OTA試験基盤の実現に向けて～」と題して講演いただきました(写真3)。冒頭では、研究室の研究内容について楽しく紹介いただきました。そして、RISを用いた生体電磁応答を模倣する電磁ファントム(LiePHと命名)について、そのコンセプトや実証実験の内容などをわかりやすく説明いただきました。実証実験では、空間情報や時変動チャネルが、いずれも高精度に再現できており、今後のさらなる研究の進展が期待されます。

IEEE AP-S Tokyo Chapter特別講演では、信州大学の富田孝幸先生に「宇宙の極限からのメッセージ—アマテラス粒子とコズミックレイVR」と題して講演いただきました(写真4)。宇宙からやってくる宇宙線(英語ではコズミックレイ)の観測について先生の取組みをお話いただきました。観測史上2番目に高いエネルギーを持つアマテラス粒子が観測されましたが、結局、どこからやって来たのか謎のままというのも研究者泣かせです。また、コズミックレイによる空気シャワー現象を体感できるVRの製作も手掛けられ、アウトリーチ活動の大切さについても強調しておられました。

【2】AP研拡大執行委員会報告

AP研の1日目(3/18)の午前中に拡大執行委員会が行われ、各種委員会の来年度の方針について議論されました。主な議論の内容としては、2027年4月の電磁界シミュレーションオーガナイズドセッションから正式にEMT研と併催となることや、2026年度から二種研活動収入の額に応じて



写真1 一種研の会場(松本商工会議所)



写真2 フレッシュドクターセッション
(左から、今井委員長、立石様)



写真3 AP研チュートリアル講演
(岩手大学 村田先生)



写真4 IEEE AP-S Tokyo Chapter 特別講演
(左から、今井委員長、富田先生、
Tokyo Chapter 高橋委員長)

事務費を学会に支払うことになるため、AP研事業収入の安定化のために、ワークショップの価格改定について話し合われた他、過去のワークショップのオンデマンド配信についても実施検討することになりました。これらの方針については、5月の各種委員会に向けて詳細に検討していくことになります。

【3】2026年電子情報通信学会総合大会報告

3月9日(月)～13日(金)に、2026年電子情報通信学会総合大会が九州産業大学にて開催されました(写真5)。A・P研関係の発表件数は合計155件で、昨年の総合大会の発表件数と同数です。分野別で見ると、B-1Bが10件減って、代わりにB-1Aが10件増えています。B-1Aではレーダー・センシング関連の発表が少し増えた印象があります。[B-1A: 6セッション(35件), B-1B: 12セッション(70件), B-1C: 7セッション(42件), BS-1: 3セッション(8件)]。初日から多くの人が聴講し、シンポジウムも盛況でした。



写真5 総合大会会場（九産大 1号館）

【4】副委員長の戯言

◆ダンベルジョッキチャレンジ

今回の総合大会の会場は福岡でしたが、昨年の10月に行われたISAP2025も福岡で行われ、どちらも約1週間の長い滞在となりました。AP研執行部メンバーは総合大会の会期中は、もしものトラブル対処のため会場に常駐していました。最終日の前の晩に、新旧含めた執行部の皆さんと執行部打合せをした後、天神で食事会をしました。二次会で名物の焼きラーメンを食べようということになり、付近の屋台に立ち寄ることにしました。どこの屋台も混んでいて、ようやく屋台の一つに入ることができ、お目当ての焼きラーメンと博多餃子をいただきました。ふと屋台の柱に目をやると、「ダンベルジョッキチャレンジ」の貼り紙に気づき、幹事の山田さんがチャレンジすることになりました(写真6)。ステンレス製のジョッキの重さは10kgもあり、片手だけでジョッキを持ち上げて一気に飲み干すことができれば成功です。しかし、ルールもよくわからないままチャレンジしてしまい、そして、両手を使わなければ飲めませんでしたのでチャレンジ失敗となりました。店員さんから聞いた話では、今までに成功した人はたった3人だそうです。屋台での二次会は盛り上がり、総合大会の楽しい思い出の一つとなりました。



写真6 ダンベルジョッキチャレンジ
(隣の村田先生も右手に力が入る！)

◆FOMAサービス終了

2026年3月31日にドコモのFOMAサービスが終了しました。これにより国内での3Gサービスはなくなり、4G/5Gへ移行されました。実は、私は個人携帯の3Gガラケーをずっと使い続けていて、これを機に、ようやくスマホに機種変更しました(0円です)。最後の約一年間は、ガラケーで電話をかける度にFOMAサービス終了の音声ガイダンスが流れ、それを聞き終わらないと発信しなかったのが非常に煩わしかったです。FOMAは約25年前の2001年に2GHz帯でサービスが開始されましたが、当時、私は2GHz帯用の基地局アンテナを数機種開発していました。この3Gから、初めて偏波共用アンテナを開発することになり、VとHの各偏波で水平面ビーム幅を揃えるのに苦労した記憶があります。FOMA終了により空いた2GHz帯の使い道については、今のところドコモは明らかにしておらず、今後の動向が注目されています。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 大島 一郎 (電気興業)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

